(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-162122
(P2017-162122A)
(43)公開日　平成29年9月14日(2017.9.14)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
G06F 3/0481	(2013.01)	G06F	3/0481	5E555
G06F 3/0484	(2013.01)	G06F	3/0484	5L099
G06Q 50/24	(2012.01)	G06Q	50/24	

審査請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 14 頁）

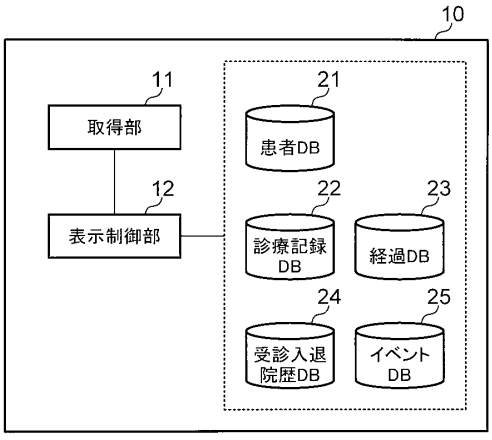
(21)出願番号　特願2016-44899(P2016-44899)
(22)出願日　平成28年3月8日(2016.3.8)

(71)出願人　000005223
富士通株式会社
神奈川県川崎市中原区上小田中４丁目１番１号
(74)代理人　100079049
弁理士　中島　淳
(74)代理人　100084995
弁理士　加藤　和詳
(74)代理人　100099025
弁理士　福田　浩志
(72)発明者　井上　貴宏
神奈川県川崎市中原区上小田中４丁目１番１号　富士通株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】カルテ表示プログラム、装置、及び方法

(57)【要約】
【課題】１画面に表示された複数のウィンドウの各々に、簡単な操作で必要な情報を表示させる。
【解決手段】それぞれ異なる種類のカルテ情報を表示する複数のウィンドウを含むマルチウィンドウ表示を行う。表示制御部１２は、複数のウィンドウは、それぞれ、日付の指定を受け付ける操作部品を含み、複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウにおける操作部品に対して特定の日付の指定を受けると、複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウ以外の他のウィンドウにおける操作部品に対して、特定の日付の指定を自動的に行う。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
それぞれ異なる種類のカルテ情報を表示する複数のウィンドウを含むマルチウィンドウ表示をコンピュータに実行させるカルテ表示プログラムにおいて、
前記複数のウィンドウは、それぞれ、日付の指定を受け付ける操作部品を含み、
前記複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウにおける操作部品に対して特定の日付の指定を受けると、前記複数のウィンドウのうち、前記第１のウィンドウ以外の他のウィンドウにおける操作部品に対して前記特定の日付の指定を自動的に行う
ことを特徴とするカルテ表示プログラム。
【請求項２】
前記カルテ情報は、日付に紐付いた所定の情報であり、
前記複数のウィンドウの各々に、各ウィンドウに含まれる操作部品により指定された日付に紐付いた所定の情報を表示する
請求項１記載のカルテ表示プログラム。
【請求項３】
前記第１のウィンドウに所定期間分のカルテ情報が表示される場合、前記操作部品により、前記所定期間に含まれるいずれかの日付の指定を、前記特定の日付の指定として受け付け、
前記他のウィンドウに所定期間分のカルテ情報が表示される場合、前記特定の日付を基準とする所定期間分のカルテ情報を表示する
請求項２記載のカルテ表示プログラム。
【請求項４】
前記他のウィンドウに表示されるカルテ情報が、前記特定の日付に紐付いた情報を有さない場合には、前記特定の日付より過去の日付で、かつ直近の日付に紐付いた情報を表示する請求項２又は請求項３のいずれか１項記載のカルテ表示プログラム。
【請求項５】
前記カルテ情報が複数種類の日付を含む場合、前記特定の日付を指定するための日付の種類を選択可能とする請求項１～請求項４のいずれか１項記載のカルテ表示プログラム。
【請求項６】
それぞれ異なる種類のカルテ情報を表示する複数のウィンドウを含むマルチウィンドウ表示を行うカルテ表示装置において、
前記複数のウィンドウは、それぞれ、日付の指定を受け付ける操作部品を含み、
前記複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウにおける操作部品に対して特定の日付の指定を受けると、前記複数のウィンドウのうち、前記第１のウィンドウ以外の他のウィンドウにおける操作部品に対して前記特定の日付の指定を自動的に行う表示制御部
を含むことを特徴とするカルテ表示装置。
【請求項７】
それぞれ異なる種類のカルテ情報を表示する複数のウィンドウを含むマルチウィンドウ表示をコンピュータに実行させるカルテ表示方法において、
前記複数のウィンドウは、それぞれ、日付の指定を受け付ける操作部品を含み、
前記複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウにおける操作部品に対して特定の日付の指定を受けると、前記複数のウィンドウのうち、前記第１のウィンドウ以外の他のウィンドウにおける操作部品に対して前記特定の日付の指定を自動的に行う
ことを特徴とするカルテ表示方法。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、カルテ表示プログラム、カルテ表示装置、及びカルテ表示方法に関する。
【背景技術】
【０００２】

従来、特定の患者に関する診察情報、診療内容、オーダ・処置、処方内容などの特定主題毎のデータをそれぞれ実質的に１画面にて表示しうる複数の画面を備えた電子式医療管理システムが提案されている。このシステムでは、最新の過去データの１画面表示や、過去の一連の診療内容の１画面表示や、過去の一連のオーダ・処置の１画面表示や、過去の一連の処方内容の１画面表示などが設けられる。

【０００３】

また、最新の診察日の診察業務データと当該最新の診察日より古い１回若しくは一連のＮ回分の診察業務データの内容を、画面の横方向若しくは縦方向へ診察日順に並べて表示する診察業務支援装置が提案されている。

【０００４】

また、クリニカルパスの内容を端末装置の利用者又は利用場面に応じた複数のタブに分けて表示する電子カルテシステムが提案されている。このシステムでは、任意のタブを表示している状態から他の任意のタブに切り換えられるとき、切り換え前のタブと同一の時間範囲の切り換え後のタブの情報が表示される。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００５】

【特許文献１】特開２００１－５８９０号公報

【特許文献２】特開２０１１－２３３１３４号公報

【特許文献３】特開２００６－１４６８２０号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

１画面に複数のウィンドウを表示可能なマルチウィンドウ方式の電子カルテシステムでは、各々独立したデータベースに格納された情報を、それぞれ独立に各ウィンドウに表示することが可能である。

【０００７】

このようなマルチウィンドウ方式の電子カルテシステムにおいて、特定の日付の情報を閲覧したい場合には、各ウィンドウに特定の日付の情報を表示させるための操作をウィンドウ毎に行う必要がある。

【０００８】

本発明は、１画面に表示された複数のウィンドウの各々に、簡単な操作で必要な情報を表示させることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００９】

本発明は、一つの態様として、それぞれ異なる種類のカルテ情報を表示する複数のウィンドウを含むマルチウィンドウ表示を行う。前記複数のウィンドウは、それぞれ、日付の指定を受け付ける操作部品を含む。そして、前記複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウにおける操作部品に対して特定の日付の指定を受けると、前記複数のウィンドウのうち、前記第１のウィンドウ以外の他のウィンドウにおける操作部品に対して前記特定の日付の指定を自動的に行う。

【発明の効果】

【００１０】

一つの側面として、１画面に表示された複数のウィンドウの各々に、簡単な操作で必要な情報を表示させることができる、という効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【００１１】

【図１】本実施形態に係るカルテ表示装置の概略構成を示す機能ブロック図である。

【図２】患者データベース（ＤＢ）の一例を示す図である。

【図３】診療記録ＤＢ２２の一例を示す図である。

【図４】経過ＤＢの一例を示す図である。
【図５】受診入退院歴ＤＢの一例を示す図である。
【図６】イベントＤＢの一例を示す図である。
【図７】マルチウィンドウ画面の一例を示す図である。
【図８】本実施形態に係るカルテ表示装置として機能するコンピュータの概略構成を示すブロック図である。
【図９】本実施形態におけるカルテ表示処理の一例を示すフローチャートである。
【図１０】日付指定部品として用いる項目の設定を説明するための図である。
【発明を実施するための形態】
【００１２】
以下、図面を参照して、本発明に関する実施形態の一例を詳細に説明する。
【００１３】
図１に示すように、本実施形態に係るカルテ表示装置１０は、取得部１１と、表示制御部１２とを含む。また、カルテ表示装置１０の所定の記憶領域には、カルテ情報の種別毎に複数のデータベースが記憶されている。
【００１４】
本実施形態では、カルテ情報の種別として、患者、診療記録、経過、受診入退院歴、及びイベントが含まれる例について説明する。カルテ表示装置１０の所定の記憶領域には、このカルテ情報の種別の各々に対応して、患者データベース（ＤＢ）２１、診療記録ＤＢ２２、経過ＤＢ２３、受診入退院歴ＤＢ２４、及びイベントＤＢ２５が記憶されているものとする。
【００１５】
図２に、患者ＤＢ２１の一例を示す。図２の例では、「氏名」、「性別」、「生年月日」等の各患者に関する情報が、患者を識別するための「患者ＩＤ」に対応付けられて記憶されている。
【００１６】
図３に、診療記録ＤＢ２２の一例を示す。図３の例では、診療記録ＤＢ２２は、「患者ＩＤ」、「記入日」、「内容」等の情報を含む。「記入日」は、「患者ＩＤ」で識別される患者についての診療記録を記入した日付であり、「内容」は、その診療記録の内容である。
【００１７】
図４に、経過ＤＢ２３の一例を示す。図４の例では、経過ＤＢ２３は、「患者ＩＤ」、「測定日」、「対象項目」、「測定値」等の情報を含む。「対象項目」は、例えば血液検査により得られる血中成分の種類等であり、経過ＤＢ２３には、その対象項目について、「測定日」に測定された「測定値」が記録されている。
【００１８】
図５に、受診入退院歴ＤＢ２４の一例を示す。図５の例では、受診入退院歴ＤＢ２４は、「患者ＩＤ」、「種別」、「受診／入院日」、「転院／退院日」、「診療科」等の情報を含む。「種別」は、各行の日付が受診に関するものか、入退院に関するものかを示す情報である。
【００１９】
図６に、イベントＤＢ２５の一例を示す。図６の例では、イベントＤＢ２５は、「患者ＩＤ」、「イベント」、「日付」、「時間」等の情報を含む。「イベント」は、「患者ＩＤ」で識別される患者に対する内服、注射・輸血、処置等のイベントの内容を示す情報であり、「日付」及び「時間」は、そのイベントが実施される日付及び時間を示す。
【００２０】
取得部１１は、患者ＩＤの指定、及び各ウィンドウ（詳細は後述）に表示するカルテ情報の種別の指定を受け付ける。取得部１１は、指定されたカルテ情報の種別に対応するデータベースから、指定された患者ＩＤに対応する情報を取得し、表示制御部１２に受け渡す。

【００２１】
表示制御部１２は、取得部１１から受け渡された情報に基づいて、カルテ情報の種別毎のウィンドウにそれぞれの情報を表示する。各ウィンドウに表示する情報は、各ウィンドウに含まれる日付指定部品（詳細は後述）で指定された日付、又は指定された日付を基準とした所定期間の日付に紐付く情報である。
【００２２】
例えば、表示制御部１２は、図７に示すようなマルチウィンドウ画面３０を表示装置（図示省略）に表示する。図７の例では、マルチウィンドウ画面３０には、患者を特定する情報３１（図７の例では、患者ＩＤ及び患者氏名）が表示される。また、マルチウィンドウ画面３０には、指定されたカルテ情報の種別の各々に対応した複数のウィンドウ３２が表示される。図７では、カルテ情報の種別「診療記録」に対応したウィンドウ３２Ａ、「経過」に対応したウィンドウ３２Ｂ、「受診入退院歴」に対応したウィンドウ３２Ｃ、及び「イベント」に対応したウィンドウ３２Ｄが表示された例を示している。なお、以下では、各ウィンドウ３２Ａ、３２Ｂ、３２Ｃ、３２Ｄを区別なく説明する場合には、単に「ウィンドウ３２」と表記する。
【００２３】
各ウィンドウ３２には、ウィンドウのタイトル３３、日付指定部品３４、内容表示領域３５、各ウィンドウ３２を閉じる際に選択される閉じるボタン３６、及び日付ロックボタン３７の各部品が含まれる。日付指定部品３４及び内容表示領域３５は、各ウィンドウ３２に対応するカルテ情報の種別に応じた形式で表示される。なお、各ウィンドウ３２に含まれる部品を他のウィンドウ３２の部品と区別して説明する場合には、その部品が含まれるウィンドウ３２の末尾の符号（Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ）と同じ符号を末尾に付して説明する。
【００２４】
例えば、図７の例では、ウィンドウ３２Ａの日付指定部品３４Ａはカレンダー形式であり、内容表示領域３５Ａには、診療記録ＤＢ２２の「内容」の情報が表示される。また、ウィンドウ３２Ｂの内容表示領域３５Ｂには、経過ＤＢ２３の「測定値」の「測定日」毎の時系列変化をグラフ化したものが表示される。このグラフの所定期間分（図７の例では、７日分）の日付部分、及び日付の左右に表示されたスクロールキーが日付指定部品３４Ｂである。また、ウィンドウ３２Ｃの内容表示領域３５Ｃには、受診入退院歴ＤＢ２４から取得された情報が一覧形式で表示される。この一覧に含まれる日付欄（ここでは、「受診／入院日」とする）が日付指定部品３４Ｃである。
【００２５】
また、ウィンドウ３２Ｄの日付指定部品３４Ｄは、日付ボックス３４Ｄ１と、１日前ボタン３４Ｄ２と、１日後ボタン３４Ｄ３と、カレンダー表示ボタン３４Ｄ４とを含む。１日前ボタン３４Ｄ２、１日後ボタン３４Ｄ３、又はカレンダー表示ボタン３４Ｄ４を選択することにより表示されるカレンダーにより、日付ボックス３４Ｄ１に表示される日付を変更可能である。内容表示領域３５Ｄには、イベントＤＢ２５の「イベント」と「時間」とをマトリクス表示したものが表示される。
【００２６】
また、表示制御部１２は、複数のウィンドウ３２のうちのいずれかのウィンドウ３２の日付指定部品３４が操作されて日付が指定された場合、他のウィンドウ３２の日付指定部品３４にもその日付を設定する。ただし、表示制御部１２は、他のウィンドウ３２のうち、日付ロックボタン３７が選択されているウィンドウ３２の日付指定部品３４に対しては、日付の設定を行わない。
【００２７】
カルテ表示装置１０は、例えば、図８に示すコンピュータ４０で実現することができる。コンピュータ４０はCentral Processing Unit（ＣＰＵ）４１、一時記憶領域としてのメモリ４２、及び不揮発性の記憶部４３を備える。また、コンピュータ４０は、表示装置及び入力装置等の入出力装置４４、及び記録媒体４９に対するデータの読み込み及び書き込みを制御するread/write（Ｒ／Ｗ）部４５を備える。また、コンピュータ４０は、イン

ターネット等のネットワークに接続されるネットワークinterface（Ｉ／Ｆ）４６を備える。ＣＰＵ４１、メモリ４２、記憶部４３、入出力装置４４、Ｒ／Ｗ部４５、及びネットワークＩ／Ｆ４６は、バス４７を介して互いに接続される。

【００２８】

記憶部４３は、Hard Disk Drive（ＨＤＤ）、solid state drive（ＳＳＤ）、フラッシュメモリ等によって実現できる。記憶媒体としての記憶部４３には、コンピュータ４０をカルテ表示装置１０として機能させるためのカルテ表示プログラム５０が記憶されている。カルテ表示プログラム５０は、取得プロセス５１と、表示制御プロセス５２とを有する。また、記憶部４３は、患者ＤＢ２１、診療記録ＤＢ２２、経過ＤＢ２３、受診入退院歴ＤＢ２４、及びイベントＤＢ２５を含む各データベースを構成する情報が記憶されるカルテ情報記憶領域６０を有する。

【００２９】

ＣＰＵ４１は、カルテ表示プログラム５０を記憶部４３から読み出してメモリ４２に展開し、カルテ表示プログラム５０が有するプロセスを順次実行する。ＣＰＵ４１は、取得プロセス５１を実行することで、図１に示す取得部１１として動作する。また、ＣＰＵ４１は、表示制御プロセス５２を実行することで、図１に示す表示制御部１２として動作する。ＣＰＵ４１は、カルテ情報記憶領域６０から情報を読み出して、患者ＤＢ２１、診療記録ＤＢ２２、経過ＤＢ２３、受診入退院歴ＤＢ２４、及びイベントＤＢ２５を含む各データベースをメモリ４２に展開する。これにより、カルテ表示プログラム５０を実行したコンピュータ４０が、カルテ表示装置１０として機能することになる。

【００３０】

なお、カルテ表示プログラム５０により実現される機能は、例えば半導体集積回路、より詳しくはApplication Specific Integrated Circuit（ＡＳＩＣ）等で実現することも可能である。

【００３１】

次に、本実施形態に係るカルテ表示装置１０の作用について説明する。例えば、カルテ表示装置１０を含む電子カルテシステムにおいて、マルチウィンドウ画面３０の表示が指示されると、カルテ表示装置１０が、図９に示すカルテ表示処理を実行する。

【００３２】

ステップＳ１１で、取得部１１が、患者ＩＤ及び表示するカルテ情報の種別の指定を受け付ける。そして、取得部１１は、指定されたカルテ情報の種別に対応するデータベースから、指定された患者ＩＤに対応する情報を取得し、表示制御部１２に受け渡す。

【００３３】

ステップＳ１２で、表示制御部１２が、取得部１１から受け渡された情報のうち、患者ＤＢ２１から取得された情報を用いて、マルチウィンドウ画面３０に患者を特定する情報３１を表示する。

【００３４】

次に、ステップＳ１３で、表示制御部１２が、各ウィンドウ３２の初期表示を行う。具体的には、表示制御部１２は、指定されたカルテ情報の種別の数だけウィンドウ３２を表示し、カルテ情報の種別に応じて予め定められたタイトルを、各ウィンドウのタイトル３３として、各ウィンドウ３２の所定位置に表示する。また、表示制御部１２は、各ウィンドウ３２の所定位置に閉じるボタン３６及び日付ロックボタン３７を表示する。また、表示制御部１２は、カルテ情報の種別に応じた日付指定部品３４をウィンドウ３２内に表示すると共に、日付指定部品３４で指定する日付の初期値として予め定めた日付（例えば、表示を行う当日）を設定する。

【００３５】

例えば、表示制御部１２は、ウィンドウ３２Ａに、カレンダー形式の日付指定部品３４Ａを表示し、診療記録ＤＢ２２に情報が存在する日付を示す表示（図７では、網掛け）を行うと共に、指定された日付の強調表示（図７では、太線）を行う。また、表示制御部１２は、ウィンドウ３２Ｂについて、指定された日付を含む所定期間の日付及びスクロール

キーを含む日付指定部品３４Ｂを、内容表示領域３５Ｂに表示するグラフの横軸として表示する。また、表示制御部１２は、ウィンドウ３２Ｄに、指定された日付が表示された日付ボックス３４Ｄ１、１日前ボタン３４Ｄ２、１日後ボタン３４Ｄ３、及びカレンダー表示ボタン３４Ｄ４を含む日付指定部品３４Ｄを表示する。なお、日付指定部品３４Ｃについては、内容表示領域３５Ｃに表示される一覧に含まれる日付欄と兼用であるため、ここでの表示制御は行わない。

【００３６】

次に、ステップＳ１４で、表示制御部１２が、取得部１１から受け渡された情報のうち、日付指定部品３４で指定された日付に紐づく情報を、内容表示領域３５に表示する。

【００３７】

具体的には、表示制御部１２は、日付指定部品３４Ａで指定された日付に紐づく診療記録の内容を内容表示領域３５Ａに表示する。また、表示制御部１２は、日付指定部品３４Ｂで表示された日付を含む所定期間の測定値の測定日毎の時系列変化をグラフ化して内容表示領域３５Ｂに表示する。また、表示制御部１２は、受診入退院歴ＤＢ２４から取得された情報を一覧にして内容表示領域３５Ｃに表示する。この際、表示制御部１２は、内容表示領域３５Ｃに一覧全体を表示できない場合には、指定された日付に紐付く情報の行が内容表示領域３５Ｃに表示されるように制御すると共に、表示される部分を変更するためのスククロールバーを表示する。なお、上述したように、一覧に含まれる「受診／入院日」欄が日付指定部品３４Ｃとなる。

【００３８】

また、表示制御部１２は、内容表示領域３５Ｄに、縦軸にイベント、横軸に時間を配置したマトリクスを表示し、日付指定部品３４Ｄで指定された日付に紐付く情報に対応するマスに所定のマーク（図７の例では星印）を表示する。

【００３９】

次に、ステップＳ１５で、表示制御部１２が、いずれかの日付指定部品３４が操作されて日付が指定されたか否かを判定する。

【００４０】

日付指定部品３４Ａの場合、カレンダーからいずれかの日付が選択された場合に、表示制御部１２は、日付が指定されたと判定する。日付指定部品３４Ｂの場合、スクロールキーが選択されて表示されている期間が変更された場合に、表示制御部１２は、日付が指定されたと判定する。なお、日付指定部品３４Ｂでは、表示されている期間のうちのいずれかの日付（例えば中央に表示されている日付、図７の例では「２／１６」）を指定された日付として特定する。日付指定部品３４Ｃの場合、一覧の「受診／入院日」欄からいずれかの日付が選択された場合に、表示制御部１２は、日付が指定されたと判定する。日付指定部品３４Ｄの場合、日付ボックス３４Ｄ１に表示された日付が変更された場合に、表示制御部１２は、日付が指定されたと判定する。

【００４１】

日付が指定された場合には、処理はステップＳ１６へ移行し、日付が指定されていない場合には、処理はステップＳ１７へ移行する。

【００４２】

ステップＳ１６では、表示制御部１２が、他の日付指定部品３４に、上記ステップＳ１５で指定された日付を設定する。ただし、表示制御部１２は、他のウィンドウ３２のうち、日付ロックボタン３７が選択されているウィンドウ３２の日付指定部品３４に対しては、日付の設定を行わない。例えば、いずれのウィンドウ３２の日付ロックボタン３７も選択されていない状態で、日付指定部品３４Ａで日付が指定されたとする。この場合、表示制御部１２は、日付指定部品３４Ｂの表示を、指定された日付を基準とする所定期間（例えば、指定された日付の前後３日、計７日）に変更する。また、表示制御部１２は、日付指定部品３４Ｄの日付ボックス３４Ｄ１に指定された日付を表示する。

【００４３】

他の日付指定部品３４へ日付が設定されると、処理はステップＳ１４に戻る。これによ

り、各ウィンドウ３２において、ステップＳ１６で指定された日付に紐付く情報が内容表示領域３５に表示される。なお、日付指定部品３４Ｃについては、内容表示領域３５Ｃに表示される一覧に含まれる日付欄と兼用であるため、ステップＳ１６での表示の変更はなく、ステップＳ１４において、指定された日付に基づく表示の変更が行われる。

【００４４】

一方、ステップＳ１７では、表示制御部１２が、マルチウィンドウ画面３０の表示を終了するか否かを判定し、終了しない場合には、処理はステップＳ１５に戻り、終了する場合には、カルテ表示処理は終了する。

【００４５】

以上説明したように、本実施形態おけるカルテ表示装置によれば、マルチウィンドウ画面のいずれかのウィンドウで日付が指定されると、他のウィンドウに対しても同じ日付が設定される。このように、１つのウィドウの日付を指定することにより、他のウィンドウの日付も指定され、それに応じて、各ウィンドウの表示内容が同期して更新される。すなわち、ウィンドウ毎に個別に日付を指定することなく、簡単な操作で各ウィンドウに必要な情報を表示することができる。

【００４６】

なお、上記実施形態では、ウィンドウ３２Ｃの日付指定部品３４Ｃとして、内容表示領域３５Ｃに表示される一覧に含まれる項目の１つである「受診／入院日」を用いる場合について説明したが、これに限定されない。一覧には、日付に関する他の種類の項目「転院／退院日」も含まれるため、こちらの項目を日付指定部品３４Ｃとして用いてもよい。この場合、例えば、図１０に示すように、右クリックなどにより、内容表示領域３５Ｃ上に日付指定部品３４Ｃとして用いる項目を設定するためのメニュー３８を表示して項目を選択可能にしてもよい。なお、日付指定部品３４Ｃとして用いる項目の設定方法は図１０の例に限定されない。別のメニュー画面から設定可能としてもよいし、一覧に含まれる日付の項目の各々にチェックボックスやラジオボタン等の選択部品を隣接して配置し、選択部品により選択されている項目を日付指定部品３４Ｃとして用いてもよい。

【００４７】

また、各日付指定部品３４により指定された日付に紐付く情報が、対応するデータベースに存在しない場合には、指定された日付より過去の日付で、かつ直近の日付に紐付いた情報を内容表示領域３５に表示するようにするとよい。例えば、図７の例で、日付指定部品３４Ａにより「２／１６」が指定された場合において、ウィンドウ３２Ｃに対応する受診入退院ＤＢ２４には、「２／１６」に紐付いた情報がないとする。また、受診入退院ＤＢ２４において、「受診／入院日」の日付が「２／１６」より過去の日付で、かつ直近の日付が「２／１０」であるとする。この場合、表示制御部１２は、「受診／入院日」が「２／１０」に紐付いた情報が、内容表示領域３５Ｃの一覧に含まれるように表示する。

【００４８】

また、上記実施形態では、マルチウィンドウ画面３０に４つのウィンドウ３２を表示する例について説明したが、表示するウィンドウ３２の数は４つに限定されず、２つ以上のウィンドウ３２を表示する場合であれば、本発明を適用可能である。また、各ウィンドウ３２に表示するカルテ情報の内容も本実施形態の例に限定されず、日付に紐付いた情報であれば、本発明を適用可能である。

【００４９】

なお、上記では、カルテ表示プログラム５０が記憶部４３に予め記憶（インストール）されている態様を説明したが、これに限定されない。本発明に係るプログラムは、ＣＤ－ＲＯＭ、ＤＶＤ－ＲＯＭ、ＵＳＢメモリ等の記録媒体に記録された形態で提供することも可能である。

【００５０】

以上の実施形態に関し、更に以下の付記を開示する。

【００５１】

（付記１）

それぞれ異なる種類のカルテ情報を表示する複数のウィンドウを含むマルチウィンドウ表示をコンピュータに実行させるカルテ表示プログラムにおいて、
前記複数のウィンドウは、それぞれ、日付の指定を受け付ける操作部品を含み、
前記複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウにおける操作部品に対して特定の日付の指定を受けると、前記複数のウィンドウのうち、前記第１のウィンドウ以外の他のウィンドウにおける操作部品に対して前記特定の日付の指定を自動的に行う
ことを特徴とするカルテ表示プログラム。
【００５２】
（付記２）
前記カルテ情報は、日付に紐付いた所定の情報であり、
前記複数のウィンドウの各々に、各ウィンドウに含まれる操作部品により指定された日付に紐付いた所定の情報を表示する
付記１記載のカルテ表示プログラム。
【００５３】
（付記３）
前記第１のウィンドウに所定期間分のカルテ情報が表示される場合、前記操作部品により、前記所定期間に含まれるいずれかの日付の指定を、前記特定の日付の指定として受け付け、
前記他のウィンドウに所定期間分のカルテ情報が表示される場合、前記特定の日付を基準とする所定期間分のカルテ情報を表示する
付記２記載のカルテ表示プログラム。
【００５４】
（付記４）
前記他のウィンドウに表示されるカルテ情報が、前記特定の日付に紐付いた情報を有さない場合には、前記特定の日付より過去の日付で、かつ直近の日付に紐付いた情報を表示する付記２又は付記３のいずれか１項記載のカルテ表示プログラム。
【００５５】
（付記５）
前記カルテ情報が複数種類の日付を含む場合、前記特定の日付を指定するための日付の種類を選択可能とする付記１～付記４のいずれか１項記載のカルテ表示プログラム。
【００５６】
（付記６）
前記他のウィンドウに対する前記特定の日付の指定を行わない設定を可能とする付記１～付記５のいずれか１項記載のカルテ表示プログラム。
【００５７】
（付記７）
それぞれ異なる種類のカルテ情報を表示する複数のウィンドウを含むマルチウィンドウ表示を行うカルテ表示装置において、
前記複数のウィンドウは、それぞれ、日付の指定を受け付ける操作部品を含み、
前記複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウにおける操作部品に対して特定の日付の指定を受けると、前記複数のウィンドウのうち、前記第１のウィンドウ以外の他のウィンドウにおける操作部品に対して前記特定の日付の指定を自動的に行う表示制御部
を含むことを特徴とするカルテ表示装置。
【００５８】
（付記８）
前記カルテ情報は、日付に紐付いた所定の情報であり、
前記表示制御部は、前記複数のウィンドウの各々に、各ウィンドウに含まれる操作部品により指定された日付に紐付いた所定の情報を表示する
付記７記載のカルテ表示装置。
【００５９】

（付記９）
前記表示制御部は、前記第１のウィンドウに所定期間分のカルテ情報が表示される場合、前記操作部品により、前記所定期間に含まれるいずれかの日付の指定を、前記特定の日付の指定として受け付け、前記他のウィンドウに所定期間分のカルテ情報が表示される場合、前記特定の日付を基準とする所定期間分のカルテ情報を表示する
付記８記載のカルテ表示装置。
【００６０】
（付記１０）
前記表示制御部は、前記他のウィンドウに表示されるカルテ情報が、前記特定の日付に紐付いた情報を有さない場合には、前記特定の日付より過去の日付で、かつ直近の日付に紐付いた情報を表示する付記８又は付記９のいずれか１項記載のカルテ表示装置。
【００６１】
（付記１１）
前記表示制御部は、前記カルテ情報が複数種類の日付を含む場合、前記特定の日付を指定するための日付の種類を選択可能とする付記７～付記１０のいずれか１項記載のカルテ表示装置。
【００６２】
（付記１２）
前記表示制御部は、前記他のウィンドウに対する前記特定の日付の指定を行わない設定を可能とする付記７～付記１１のいずれか１項記載のカルテ表示装置。
【００６３】
（付記１３）
それぞれ異なる種類のカルテ情報を表示する複数のウィンドウを含むマルチウィンドウ表示をコンピュータに実行させるカルテ表示方法において、
前記複数のウィンドウは、それぞれ、日付の指定を受け付ける操作部品を含み、
前記複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウにおける操作部品に対して特定の日付の指定を受けると、前記複数のウィンドウのうち、前記第１のウィンドウ以外の他のウィンドウにおける操作部品に対して前記特定の日付の指定を自動的に行う
ことを特徴とするカルテ表示方法。
【００６４】
（付記１４）
前記カルテ情報は、日付に紐付いた所定の情報であり、
前記複数のウィンドウの各々に、各ウィンドウに含まれる操作部品により指定された日付に紐付いた所定の情報を表示する
付記１３記載のカルテ表示方法。
【００６５】
（付記１５）
前記第１のウィンドウに所定期間分のカルテ情報が表示される場合、前記操作部品により、前記所定期間に含まれるいずれかの日付の指定を、前記特定の日付の指定として受け付け、
前記他のウィンドウに所定期間分のカルテ情報が表示される場合、前記特定の日付を基準とする所定期間分のカルテ情報を表示する
付記１４記載のカルテ表示方法。
【００６６】
（付記１６）
前記他のウィンドウに表示されるカルテ情報が、前記特定の日付に紐付いた情報を有さない場合には、前記特定の日付より過去の日付で、かつ直近の日付に紐付いた情報を表示する付記１４又は付記１５のいずれか１項記載のカルテ表示方法。
【００６７】
（付記１７）

前記カルテ情報が複数種類の日付を含む場合、前記特定の日付を指定するための日付の種類を選択可能とする付記１３～付記１６のいずれか１項記載のカルテ表示方法。

【００６８】

（付記１８）

前記他のウィンドウに対する前記特定の日付の指定を行わない設定を可能とする付記１３～付記１７のいずれか１項記載のカルテ表示方法。

【００６９】

（付記１９）

それぞれ異なる種類のカルテ情報を表示する複数のウィンドウを含むマルチウィンドウ表示をコンピュータに実行させるカルテ表示プログラムにおいて、

前記複数のウィンドウは、それぞれ、日付の指定を受け付ける操作部品を含み、

前記複数のウィンドウのうち、第１のウィンドウにおける操作部品に対して特定の日付の指定を受けると、前記複数のウィンドウのうち、前記第１のウィンドウ以外の他のウィンドウにおける操作部品に対して前記特定の日付の指定を自動的に行う

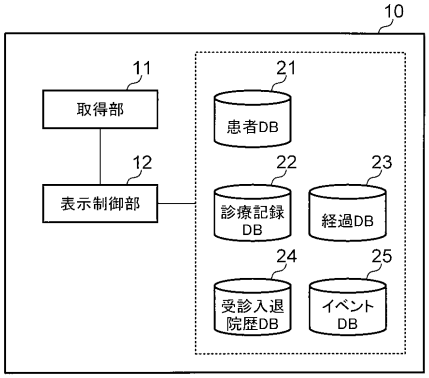
ことを特徴とするカルテ表示プログラムを記憶した記憶媒体。

【符号の説明】

【００７０】

１０　カルテ表示装置
１１　取得部
１２　表示制御部
２１　患者データベース
２２　診療記録データベース
２３　経過データベース
２４　受診入退院歴データベース
２５　イベントデータベース
３０　マルチウィンドウ画面
３２　ウィンドウ
３４　日付指定部品
３５　内容表示領域
３７　日付ロックボタン
４０　コンピュータ
４１　ＣＰＵ
４２　メモリ
４３　記憶部
４９　記録媒体
５０　カルテ表示プログラム

【図１】



【図２】

21

患者ID	氏名	性別	生年月日	…
0001	AAAA	男性	1966/1/18	
…				

【図３】

22

患者ID	記入日	内容	…
0001	2016/2/6	…	
…			

【図４】

23

患者ID	測定日	対象項目	測定値	…
0001	2016/2/6	Hb	x	
…				

【図５】

24

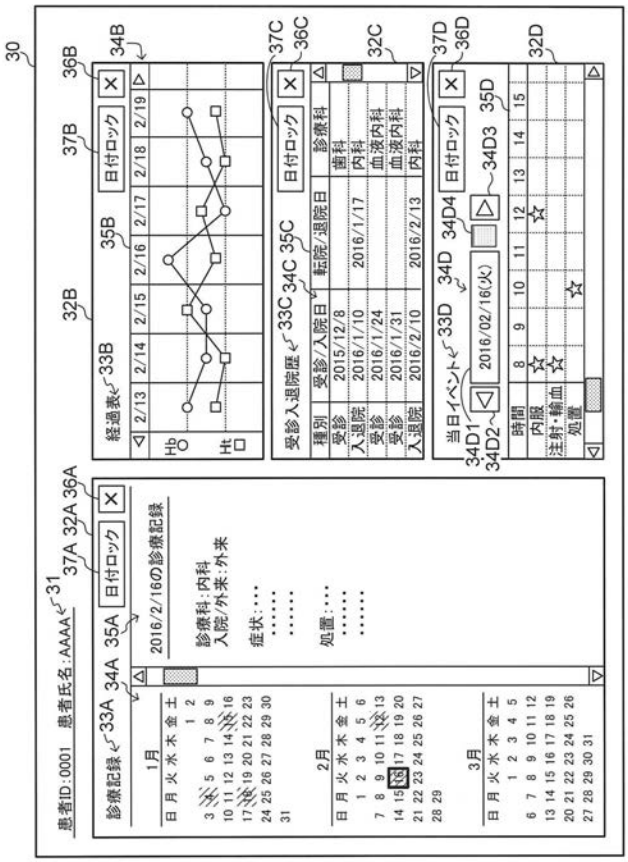
患者ID	種別	受診/入院日	転院/退院日	診療科	…
0001	受診	2015/12/8		歯科	
0001	入退院	2016/1/10	2016/1/17	内科	
…					

【図６】

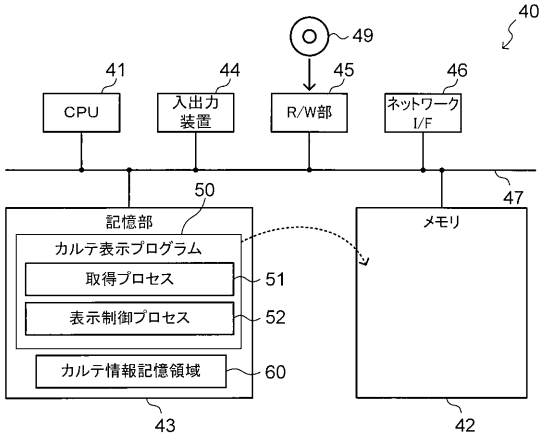
25

患者ID	イベント	日付	時間	…
0001	内服	2016/2/6	8:00	
0001	処置	2016/2/6	10:00	
…				

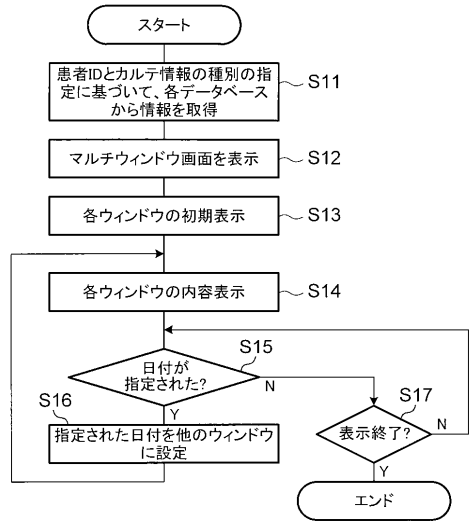
【図７】



【図８】



【図９】


スタート
患者IDとカルテ情報の種別の指定に基づいて、各データベースから情報を取得
S11
マルチウィンドウ画面を表示
S12
各ウィンドウの初期表示
S13
各ウィンドウの内容表示
S14
S15
日付が指定された?
N
Y
S16
指定された日付を他のウィンドウに設定
S17
表示終了?
N
Y
エンド

【図１０】


32C
受診入退院歴
34C
35C
日付ロック
種別
受診/入院日
転院/退院日
診療科
受診
入退院
受診
受診
入退院
2016/2/10
2016/2/13
内科
受診/入院日を指定の対象に設定
転院/退院日を指定の対象に設定
38

フロントページの続き

Ｆターム(参考) 5E555 AA04 AA13 BA22 BA71 BB22 BC17 BD01 CA24 CB32 CB33
CC03 DB03 DB04 DB25 DB41 DC07 DC08 DC13 DC84 DD07
EA07 EA11 FA00
5L099 AA23